

東洋文庫藏書

早稲田大学図書館
文書 27
A 34
2



○本寺西京行
美濃、行三糸
公帰田、地
右メ、業、建
言

正月、在、上京
米、藩、機、組
一言、及、時、ナリ

明治四年三月一日詔

三月朔、晴、且、風

森、寺、知、持、之、馬、車、友、從、持、傍、古、年、以、
如、此、之、事、

年、以、外、者、亦、魁、老、与、大、軍、密、具、之、實、

此、日、之、森、寺、知、持、大、録、以、策、地、出、手、不、可、以、以、

等、法、如、心、結、之、事、

南、信、州、知、持、之、事、

其、地、如、第、事、大、信、州、知、持、之、事、

其、年、之、事、の、事、如、持、之、事、

○芥澤帰藩
〇芥澤帰藩
〇芥澤帰藩
〇芥澤帰藩
〇芥澤帰藩
〇芥澤帰藩
〇芥澤帰藩
〇芥澤帰藩

二月美晴

芥澤由藩身家書品物消耗者多
及免職之情年々月々家久且張多耗因
托()

社藤木利大参事、面会乍利日行、控、厩、
段、入、法、油、舎、取、取、先、築、地、占、未、詔、

三日曇

風邪終、不出家、越前伊拜、控、物、心、集、居、家、
控、越、更、堂、人、信、控、極、上、同、左、右、書、見、有、書、
書、身、考、嶽、公、探、履、之、會、唐、中、野、身、也、

平氣起考風

王林堂

取之芳隆東活除更及

如晴

終日保養、金吏、手有宛下、藝妓、平所、東州、南、博、了、云、何、即、事、中、也、与、故、

東、の、根、林、控、参、事、末、在、利、大、参、事、淡、活、之、云、
中、内、の、手、前、池、田、大、屬、末、活、

五日小雨

午後、投、根、大、末、改、革、以、末、之、云、根、り、淡、了、射、的、

黄昏及

二日陰且雨

朝、李、堂、不、来、。、芒、湯、針、り、馬、の、借、葉、雲、り、駭、り、卷、

土越親睦
周旋

白土上毛洪沈元糾 改事 大之深 後部大志
水野野八印 中 印 印 印 印 印 印 印
悉皆不在 嗟中 抄 面會 未 未 未 未 未 未 未 未
一丁 屬印 池田 之 義 取 取 取 取 取 取 取 取
八法

七日晴

秋高節 之 年 之 木 之 林 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活
根
中
柳 柳

玉林堂

土越西藩大
事相會

九日
子起後森吃
中

秋高節 之 年 之 木 之 林 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活
根
中
柳 柳

秋高節 之 年 之 木 之 林 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活
根
中
柳 柳

秋高節 之 年 之 木 之 林 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活 之 活
根
中
柳 柳

西子好舞如飛
粉白膩粉如雪
此七世也
他處亦多矣
世世亦多矣

桓桓見望所自以
我之德也
因循之起意
以深先人
苟且可進
後即如來
有且可進
後即如來
後即如來
後即如來
後即如來
後即如來
後即如來

王林堂

家去之極河
平去由以
府中帥
院之何也
去之也
平山也
公爾事
事兒
小居

十の百六

其は色に赤き即ち東に紅盤を海軍しつし

河に花の物不降(天より赤い)破一境

善多漏生(ゴロ)河移の時島原より南に階流

擲のは枝枝人急事(病を治)陽金を

福富得次(る)河原の東一十九(七)子の赤字

神徳末
十金を

毛列や
三の若し
と未

其は赤と
二年計ら
還す

毛列大急事(河原)河原(河)入の相

太極(未)末(未)河原(未)河原(未)

十の百六 雨(未)河原(未)河原(未)

其は丹羽(毛)利(未)河原(未)河原(未)

并澤往微十
四日三上京

腐之為天下... 為... 云... 然...
其... 入... 多... 事... 一... 九... 乃... 為... 者... 何... 得... 之...
之... 宛... 河... 有... 中... 亦... 去... 達... 少... 生... 知... 誠... 之...
收... 之... 便... 一... 一... 其... 決... 其... 分... 感... 德... 又... 乃... 為... 之...
可... 以... 事... 自... 為... 工... 可... 之... 成

十... 之... 時...

新... 序... 上... 抄... 摩... 考... 法... 師... 書

其... 決... 少... 失... 事... 一... 東... 一... 一... 時... 未... 得... 之...
十... 下... 之... 銀... 之... 後... 從... 以... 看... 之... 三... 民... 論... 一... 定...
老... 公... 之... 事... 須... 十... 七... 之... 少... 及... 書... 之... 海... 師...

王林堂

市街始... 馬車
丁酉二月九日

松垣中... 亦... 展... 宿... 孝... 之... 代... 為... 家...
毛... 板... 在... 了... 小... 酌... 中... 亦... 有... 一... 翰... 耳

十... 七... 日... 節... 時...

其... 於... 伊... 然... 也... 東... 全... 十... 二... 五... 及...

極... 矣... 入... 其... 中... 有... 年... 亦... 中... 有... 在... 松... 之... 也... 之... 仲...

馬... 車... 一... 字... 也... 也... 王... 子... 播... 之... 也... 之... 也... 也...

陶... 全... 日... 高... 百... 川... 之... 道... 願... 河... 川... 以... 之... 何... 飲...

今... 謂... 是... 乃... 海... 居... 京... 市... 中... 初... 白... 馬... 車... 之... 也... 東... 不...

十... 七... 日... 節...

於... 福... 井... 心... 善... 來... 大... 其... 身... 中... 之... 可... 以... 收... 於... 五... 行...

米沢人横濱
表符系云
治平七年

伊藤氏之世也
其子屬部
治平七年
伊藤氏之世也
其子屬部
治平七年

十ノ内

伊藤氏之世也
其子屬部
治平七年
伊藤氏之世也
其子屬部
治平七年

王林堂

板垣氏
之始

板垣氏
之始

板垣氏之世也
其子屬部
治平七年
板垣氏之世也
其子屬部
治平七年

板垣氏之世也
其子屬部
治平七年
板垣氏之世也
其子屬部
治平七年

板垣氏之世也
其子屬部
治平七年
板垣氏之世也
其子屬部
治平七年

板垣氏之世也
其子屬部
治平七年
板垣氏之世也
其子屬部
治平七年

留人

以不^回國^回字
浪擲^空羨^意
人^生達

丹羽^上鶴^印也^又馬^上菓子^一區^礼

渡部^大忠^吉區^鞠東

大瀧^新十^郎東^法西^云也^又

曉^東云^為所^多其^昔使^不考^事在^京房

一^多步^孫行^遠与^大属^付某^道區^礼宛

以^一

毛^利一^十而^公也^{。日}其^主名^為口^代

外^務大^五九^山作^樂神^御不^更坂^田脚^子也^友

外^務大^五九^山作^樂神^御不^更坂^田脚^子也^友

玉林堂

大^五小^河某^不先^官以^祝大^成也^乎
也^神其^来以^孫死^也也^友也^友也^友

也^不當^也也^友也^友

鳥^取也^祝 小^河也^友大^五 也^國也^友

也^山也^友 也^山也^友 也^島也^友

也^野也^道 大^河也^友

也^和也^友 也^島也^友

也^人也^友 也^島也^友

也^日也^友 也^島也^友

也^伊也^友

知事公御孝
程君公
所着卯

山口

角田墨繩

國部

茂木甚四郎

兵部有子奈吉

金子

権田忠助

廣見島

中沼正六郎

廿五日

藩邸に到りて其儀を議決す所殿に用

掃除朝晝後三字

知事様位位様正着紳上下十七人

廣田忠吉均系致事

王林堂

昨前日迄古於水次儀儀位戴

丹羽之志少子由法儀方子上京之儀

廿六日朝雨

家出中に金札之雨九封し各脚便止る

渡邊右志上より面會於儀表米何人

昔蒙不祈裁一系東京府調遣之儀甚

しき云々候了御甚し知事内人之志

云々朝廷方取定云々知事之事了候了

大儀多儀了候了儀不違

若儀不違事了候了儀知事公御儀

傷し賊社之為士強也此七行年
卒統罪外之國高々志黒川流刑
森芥田心休 板板多作人
午分五作
金六下 卷四之七 漢下 漢のき流
後多山寄 虎不酌
葉公使バリスス名 下死人之名
有解三之系 板之七 時 なる 水 流 流 記
北 凡 車 凡
凡 要 午 分 五 作 漢 下 漢 の き 流

王林堂

日 美 原 共 美 事 之 運 記 外 小 居 之
去 事 事 之 爲 多 持 林 何 事 之 事 之
流 之 事 之 爲 多 持 林 何 事 之 事 之
記 之 事 之 爲 多 持 林 何 事 之 事 之
中 日 刊 刊
記 之 事 之 爲 多 持 林 何 事 之 事 之
夕 陽 之 事 之 爲 多 持 林 何 事 之 事 之
飲 之 事 之 爲 多 持 林 何 事 之 事 之
不 能 之 事 之 爲 多 持 林 何 事 之 事 之
物 之 事 之 爲 多 持 林 何 事 之 事 之

年之申末

四日晴 薄暑

大庭原次書狀云云 乃書集

不林惟天矣書中其火口伸

之天矣事一乃乃此中乃

二一乃乃此中乃乃此中乃

得我非其乃乃此中乃

阿道乃乃此中乃乃此中乃

雨乃乃此中乃乃此中乃

乃乃此中乃乃此中乃

午後猶釣勝之不事返

他右也座。伊東始庵念少事

之乃乃云云乃乃此中乃

伴黃氏會及酒乃乃此中乃

矣中之物以人松平太乃族

世談乃乃此中乃乃此中乃

一月乃乃此中乃乃此中乃

其海乃乃此中乃乃此中乃

乃乃此中乃乃此中乃乃此中乃

乃乃此中乃乃此中乃

鉛 ヲリ 丹 白粉 鉛糖 フリトル 早付木
 松 ヲリ 油 松葉烟草 ホリトラス
 銅 ヲリ ツンパン 白銅 黄銅 廿八リ庚金(白き)
 金 ヴィニユウシヤ 十リ底ニ極妙
 硝石 硝石精
 六日星(白)カ所
 山吉助六リ製糸地(大)庭(白)次(白)エラ(白)力
 初(白)夢(子)行(行)く(白)キ(白)挽(白)す
 大(白)海(白)馬(白)借(一)寸(二)馬(白)脚(白)ル(白)米(白)芥(白)汰
 シ(白)訪

玉林堂

老公森高
 同行訪大久保

白島馬上 緋細(白)梅(白)念(白)庭(白)上(白)切(白)り
 法(白)傳(白)疑(白)人(白)吸(白)末(白)芳(白)原(白)深(白)入(白)芥(白)以
 在(白)先(白)火(白)十(白)字(白)人(白)力(白)車(白)子(白)雨(白)後(白)見
 龍(白)背(白)三(白)三(白)原(白)不(白)果(白)之(白)年(白)也
 七(白)也
 季(白)中(白)末(白)年(白)方(白)乃(白)の(白)末(白)社(白)芥(白)火(白)也(白)る
 末(白)の(白)大(白)後(白)上(白)法(白)出(白)末(白)不
 以(白)末(白)口(白)呼(白)シ(白)モ(白)之(白)名(白)也(白) 取(白)吞(白)丸(白)産
 從(白)其(白)位(白)様(白)有(白)桂(白)大(白)長(白)事(白)大(白)人(白)深(白)矣(白)哉(白)ん

亦亦、を、を、を、

福利、小、望、原、大、奉、事、一、之、年、了、也、本、原、大、
印、も、多、く、久、く、お、も、た、せ、た、す、し、ゆ、の、為、も、
防、幸、の、由、り、お、ま、之、福、利、再、潤、之、者、也、
権、夫、矣、事、向、後、再、看、之、と、王、將、に、
之、を、知、事、と、建、白、せ、り、

古藩建白

一、今、般、四、民、混、同、一、趣、意、を、以、て、廣、く、教、育、
撰、舉、の、法、を、設、け、大、に、開、化、を、趨、か、せ、り、付、て、ハ、士、族、
卒、も、亦、文、武、の、常、職、を、解、き、人、民、平、均、不、羈、

玉林堂

自由、權、を、得、て、各、其、知、識、を、開、き、材、能、を、長、
こ、の、様、致、度、す、事、

一、士、族、卒、禄、削、り、儀、は、昨、年、付、之、に、連、取、計、
考、得、共、此、度、文、武、の、常、職、を、解、き、夫、に、付、て、ハ、今、
一、層、改、正、大、禄、へ、更、に、減、削、を、加、へ、總、に、一、層、裁、方、を、給、
し、或、は、之、を、賣、買、せ、或、は、子、弟、に、分、與、せ、り、等、農、商、
ノ、持、高、家、産、を、異、に、し、無、ラ、シ、ム、ハ、キ、事、也、

但、今、一、層、改、正、ノ、巨、細、ハ、別、に、書、取、ラ、レ、テ、可、
伺、出、度、事、

一、士、族、卒、共、其、實、ハ、同、一、人、民、ト、シ、テ、其、欲、を、

従ヒ農工商、業ニ就キ或ハ廃カスルヲ勝テ差
許ス事

但官員、備ル者ハ以限ル事

一民心、開化ニ從ヒ適ノ管内ニ學校ヲ取建、教育
ヲ隆シ或ハ有志ノ者ハ會社ヲ結ビ物産ヲ蕃殖
セシム様致度ニ由テ租并米米口米、外諸雜稅
ノ後ハ差免ル事

但學校或ハ物産會社等取建ル向テ漸次
差免ル事

一官員兵隊ノ官祿始リ適宜リ以テ相定、眞淨

玉林堂

共府藩縣同ノ賦算、列シ後歲ニ付更ニ尙規
則ノ通相渡ル事

但免官後任官、割テ以テ給與スル米々目
的相立サル付今姑ノ官祿四分ノ一ヲ預リ置
免官、節相渡ル事

一城地引高、分更ニ地稅ヲ課シ公廩ノ用ニ
供スル事

一毎年物産ノ多寡成否衰ヲ検査スル為メ
更ニ改所ヲ設テ凡ハ百分一ノ稅ヲ出サシムル事
但其稅、改所ノ下費ニ充ツル事

高山今日上
事修多矣
世身以之
担中内計

抱腹摩子
此取或帳
功

明板垣
新越
為陸軍
特ヲ法
以也
世修
危力
其
野心
必死
之
經
海

福井藩
改革
之
訓書
ヲ
藩
願
上
善
出
事

知事
操
あ
濁
と
殺
、
改
正
を
滿

王林堂

於
不
用
、
あ
ま
ん
公
ト
、
下
拾
カ
と
事
後
、
中
、
福
壽
君
と
終
り
、
何
も
の
成
果
全
く
無
し
、
と
云
へ
る
、
あ
ま
ん
公
ト
、
下
拾
カ
と
事

齋藤
康
正
ト
、
之
を
あ
の
油
カ
見
込
と
す
、
學
問

了
、
山
口
之
を
あ
の
油
カ
見
込
と
す
、
學
問

抱腹
摩子
不
堪
私
心
を
以
事
と
す
、
あ
ま
ん
公
ト
、
下
拾
カ
と
事

我、仙、説、
封建風事
知事ノ親給
藩人ノ御
高松節
公平論伏

十一日晴

藩邸より火之訪高橋左衛門様方来り
高橋様御返書に於て其ノ開店を
御察見すは十一日未だ未だ
山桂大参事相見の上は
薩州之語より我、仙、説、
知事ノ親給に於て仍る迄
越前守之徒を以て中力付
お伏せ申事
山下之入法神の事と
高松節

王林堂

森寺歸京

高松節
藩邸より火之訪高橋左衛門様方来り
高橋様御返書に於て其ノ開店を
御察見すは十一日未だ未だ
山桂大参事相見の上は
薩州之語より我、仙、説、
知事ノ親給に於て仍る迄
越前守之徒を以て中力付
お伏せ申事
山下之入法神の事と
高松節

生玉子

水戶長州到
改革

水戶長州到... 改革... 大抵之... 大睡老... 着如... 川...

西脚老... 大臣... 海... 王林堂

米沢越前
懇徒為

漢... 米沢越前... 懇徒為

林... 性... 米沢越前... 懇徒為

... 味... 我已...

庚午十月
十二條

言。能代一言。不考。何
可。三。次。漢。基。確。立。一。呼。
國。本。確。立。之。指。之。二。呼。
抑。不。以。耳。相。許。在。鬼。二。三。呼。
之。自。古。考。一。事。云。云。層。也。選。
世。下。百。年。遠。上。大。造。塔。於。延。
也。一。事。考。一。事。考。一。事。考。
於。此。延。確。立。之。則。以。之。立。之。
一。事。考。一。事。考。一。事。考。
年。終。年。一。家。何。云。云。六。胡。十。日。

玉林堂

知。之。十。二。年。外。來。一。規。則。以。為。后。之。自。
知。如。海。陸。事。也。其。知。之。建。之。廣。也。
如。如。海。之。更。一。於。制。一。定。之。規。則。
一。事。考。一。事。考。一。事。考。一。事。考。
情。既。得。華。之。事。也。一。事。考。一。事。考。
之。周。也。一。事。考。一。事。考。一。事。考。
一。事。考。一。事。考。一。事。考。一。事。考。
士。年。一。事。考。一。事。考。一。事。考。一。事。考。
如。如。一。事。考。一。事。考。一。事。考。一。事。考。
仍。一。事。考。一。事。考。一。事。考。一。事。考。

是朝権の一定の時中我未嘗と云
 輔翼の成りたる事幸しく中し
 了りて地を向く事亦不可
 不成就なり 考る事大重なる事
 知事ん公の上京大なる事一
 上京なる事正極愉快し事
 是れ我と天地解知亦所花也
 〇はさの久き一演し 〇はさの久き一演し 〇はさの久き一演し
 制の場かゝる 難くも 〇はさの久き一演し 〇はさの久き一演し
 〇はさの久き一演し 〇はさの久き一演し 〇はさの久き一演し

王林堂

上池田人の因循
 論一巨辟牛
 遊知事之夢也

十三日晴

午後用事ありし芥沢に未池田上大層
 先在り終一説なし不采し其
 然腹も次自辨返り路事評判
 以伯の於今并一準更を流し酌
 今朝森寺より父子様と逢ふ
 今更身同座を正身なりし事
 何處を以て人
 法法を正身なりし事
 芥沢に未池田上大層

森寺配意

高知藩大参事 招恒退助
 熊本藩推参事 末田虎雄
 口 少参事 安坊一更
 德島藩大参事 小室玄信又
 彦根藩大参事 水野退一
 福井藩大参事 小笠原将
 三条家 森寺邦雄
 寺外殿 林 富方判
 丰后藩推参事 森 三介
 口 少参事 芥川善三介

王林堂

哲人といふ屋より 林勇 苑 於延吉 昭身 白
 孝悌成事 兄 如 此 孝 弟 之 般 物 然
 何 之 恒 恒 事 未 之 悔 快 之 海 外 就 每
 刑 務 之 徒 一 年 一 年 之 万 万 之 美
 屋 事 占 小 岩 心 小 字 丁 多 子 三 三 三
 的 元 之 東 人 起 事 林 海 散 了
 十 七 日 晴
 孝 悌 事 占 小 岩 東 越 而 之 獄 心 知 事
 也 之 事 占 小 岩 東 越 而 之 獄 心 知 事
 百 占 小 岩 東 越 而 之 獄 心 知 事

春嶽公の招
印
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招

予の齋名を東に予の字を五に從ふ
と多し或は内と考ふに及ぶは鳥書の中に
区海を以て記す也
予の齋名を東に予の字を五に從ふ
と多し或は内と考ふに及ぶは鳥書の中に
区海を以て記す也
予の齋名を東に予の字を五に從ふ
と多し或は内と考ふに及ぶは鳥書の中に
区海を以て記す也

玉林堂

春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招
春嶽公の招

予の齋名を東に予の字を五に從ふ
と多し或は内と考ふに及ぶは鳥書の中に
区海を以て記す也
予の齋名を東に予の字を五に從ふ
と多し或は内と考ふに及ぶは鳥書の中に
区海を以て記す也
予の齋名を東に予の字を五に從ふ
と多し或は内と考ふに及ぶは鳥書の中に
区海を以て記す也

大德聖
能帥也
於此泰九年
日外

十七日晴
出退之の棟上層如く之種極
回今更山之紅内親理院借
P. 妙
板恒奈才古梅之笑の集人
板之徒之痕毎去影之仍之
板小金大庵前十之樓在
之難求の多ヤ己ク
板之徒之影の
森林寺午之末

玉林堂

井沢三保
家創り者
知事批

芥澤知事
森寺
之旨上

今朝の所は森林寺之条之知事公之
身陳之徒後跡の森林寺以上之奮
以好安堵
大参事の追記之字占知事
也良らけらる事其神命之
森寺之徒
伊藤分所
引
十八日雨
森林寺占来

此道之五
至末上
逢

一せんせしん
朱ん必絶志老究六廣
晚方本林君多丁芥火日伴
飲且食水雨蕭寂中
十乃夕雨
梅霖如烟火大卷事
淡し海飯
富卯
名利五杯芥火上一日
知事ノ公

玉林堂

此は有来
勝今来
志公
持
乃
往
乃一
此
五枚

三十枚
二十五枚

老翁為師
 名在後漢
 功在宋史
 芥子園畫
 法卷之八

和得那的來把會と法「還」てんが
 宿海樹や丸の包らぬ想房と為呼あ
 尋句〜もよつと返る廻る〜

うた〜と

時を森幸あやゆ珠君身若くは
 自レ〜とゆき年時あすけ〜と
 片花あすは休あす活治る面
 舟若くは遊会あす〜とあす
 縁本は〜とあす〜とあす
 好す甲あす〜とあす〜とあす

玉林堂

羽舎

ゆらゆら〜とあすあす法茶〜とあす
 あすあす〜とあすあすあすあす
 志公はあすあすあすあすあす
 二十一日あす

いふ大馬を呼ぶ下は〜とあすあす
 いふ

和得那のあすあすあすあすあす
 贈あすあす
 鼓

午飯後盡心了淨之教師方一人能云
如休一人之雇為上車若于何處
運來于一處之快三寸葉
未之也今車少之付付自一先物
法了我輩即之隨而進退時先之
書之或同之若之或成之或據之
不先論而論之若之或成之或據之
若之也今車少之付付自一先物
法了我輩即之隨而進退時先之
書之或同之若之或成之或據之
不先論而論之若之或成之或據之

乃所而移之之訪燈之用法行
書書函法其矣又
二十二月日
林之雲我知子孫中道之
亦即即之矣之方之務事也
海舟之快也
福中厚我未本好之我之明樓之居
小之之厚伊孫之我之
折平原之平之在在
培留占物舍之明接也中其不

鹿兒島
西郷
三原

二千三百

能合古雨... 法舟... 不却... 勤... 二千四百... 相... 法...

王林堂

小笠原
大

奥州
石巻
盛岡
津軽
九州
小倉
博多
日田

南... 小... 知... 二千七百

... 法... 築地

服御後初のつらさなりしは後地也
何れかのきつたるか、古尼とや、
何年か、かゝり、腰に、
ある郡、
何る、
さ、
そ、
口、
何、
州、

玉林堂

杜、
病、
来、
海、
将、
氣、
之、
所、
し、

あつたに海中掬比ふも危し
将門の志起るも危し
瀧のたふ海に降るも危し
さねを何ぞはれ親は壯親
ておぬはれも
あつたに海中掬比ふも危し
将門の志起るも危し
瀧のたふ海に降るも危し
さねを何ぞはれ親は壯親
ておぬはれも
あつたに海中掬比ふも危し
将門の志起るも危し
瀧のたふ海に降るも危し
さねを何ぞはれ親は壯親
ておぬはれも

玉林堂

あつたに海中掬比ふも危し
将門の志起るも危し
瀧のたふ海に降るも危し
さねを何ぞはれ親は壯親
ておぬはれも
あつたに海中掬比ふも危し
将門の志起るも危し
瀧のたふ海に降るも危し
さねを何ぞはれ親は壯親
ておぬはれも
あつたに海中掬比ふも危し
将門の志起るも危し
瀧のたふ海に降るも危し
さねを何ぞはれ親は壯親
ておぬはれも

父 一 甄 六十五
 母 二 甄 三十九
 妻 三 甄 三十四
 弟 四 甄 二十六
 子 五 甄 二十一
 孫 六 甄 十五
 曾 七 甄 九
 玄 八 甄 三

文公於長子六年
 今年到九年

何之先年一過之僕來漢海其力
 已九年一在而奔走之密身得之
 中乃至其將威之禍之連其注然僕
 天恩之厚其言之存其僕之身
 是君山兄弟之所名也僕之微生
 家之方年七十而親之身一妹弱妻
 二小兒殆不免凍餒漢中情如火
 惟我憂國之際公私之辨曉然
 子自中事一片之忠誠貫通君事

情淡初驚之上於及後之意也
 在身無記
 其年之雨
 子自中事一片之忠誠貫通君事
 君山伊任兄之不料其運之空
 結係之妻之樹志之知恩之受
 身之成思之正之借年又之生
 上之把國事之大故之議之

廿進有初漸成... 我之知深一亦我之... 悔并... 下換靴一定... 何獲之乞... 其不堪感...

廿七の晴

高解... 知る... 小宅... 東... 恥... 亦...

和梅之詩

林の神の心

宿の心子共推其年方頃日津

層古舟の情如おの深溪々孫のまをり

美之花の心

華族方し情解をとおる

ハる松身し無の腹果年長はと作の心

心し要の心る力は花の心

色花の心

三本木し枝ふらふ草し千母端赤まの寛き心

玉林堂

林の心

高の心若くは方と棟古の心

古の心と交心

年好玉の心若くは老の心

大後身と心

和心と心

心と心

心と心

心と心

心と心

五事を以て其の平素ありては
 森芥一決り仔細ありしかば
 長短ありおのづから其の
 以平素ありては

今、彼人民平均、理、其益、
 士民のラニテ、人道、責、
 由、權、ヲ、得、テ、各、其、知、識、ヲ、
 才能、ヲ、長、セ、シ、ム、様、致、度、
 伺

玉林堂

七、孫、卒、文武、常、職、ヲ、解、シ、シ、事、
 禄、刑、ノ、義、更、ニ、録、吏、方、ノ、給、シ、家、
 規、做、シ、賞、賞、相、許、教、年、後、可、買、
 上事

一、官、負、并、ニ、孫、卒、鹿、刀、晴、ヲ、
 許、
 一、諸、民、其、所、欲、
 コノ、
 一、
 一、

朝廷、刑、起、怠、其、
 施、
 一、

細目之我追中窺可化此殿巨
古執

奏不可下心也

辨皮中

末清為筆

少至京之院
有之
行司
考

昔月朔日

好花束心
芳深花
別信
占

二

朝伊
之
林

歩得病為解之午了事始リ也
可也何事之憂之其氣多外
何去送年計
書之出元公也。書之待可
小宗信又ハ其書片伏ハ神道
於大進原者臣所ハ約節并
也事人
日三ノ曇
初十亥子然不願之果不瑞

王林書

板板下不空之書子去在考之文氣
小宗信又ハ其書片伏ハ神道
於大進原者臣所ハ約節并
也事人
日三ノ曇
初十亥子然不願之果不瑞

伊之藤右衛門少左衛門原之誤事調之可
年抄換改新中水行不空之原也

此後形勢
小笠原
吉井遊說

予亦謝辭人尚云會集一席拈筆
吉井守之

小笠原昭吉井大兵衛
民政之兵創始之心
作之者諸君也
有志者事竟成
於此之際
時勢之變
予亦謝辭人尚云會集一席拈筆
吉井守之

王林堂

河邊遊說

小梅會
栢垣
小笠原
小笠原
吉澤

栢垣
河邊遊說
小梅會
栢垣
小笠原
小笠原
吉澤

予亦謝辭人尚云會集一席拈筆
吉井守之
小梅會
栢垣
小笠原
小笠原
吉澤

尾州大奉事
藩政改革上
願其議定
谷退一之
一已了聞
板垣之石謀
此層引未
レ来心故心
平地波瀾
生

身多... 中... 起... 身...
又... 知... 大...
最... 法...
小... 借...
是... 出...
身...
身...
情... 中...
不... 新...

王林堂

付伴也

伊原... 伊原...
山... 梅...
竹... 大...
小... 伊原...
伊原...

山耶林木... 仙境... 大南... 杉松... 菩薩... 鳴... 玉林堂

八日... 申... 福... 六... 運... 形...

薩摩の方面を定めて、議院を同じくする
會の目的なり

○大久保が薩摩西御信を以てして、
右の事、其の日、四將も兵隊も
古山君も助義之言を奉り、薩摩の
本居美濃守東宮に書見役を以てし
○若坊の文胆、好く人々を先年、西原
に遊ばし、唐の国城を帝目録せし
白人、薩摩の事、其の勝、山國あり
、若坊の事、西原の事、其の勝、山國あり

亦無不
此

此の
小紅毛屋の下、但し、その御書を向に
ある事、遺脱を以て、其の中、分るる事、
亦、筆、其の事、其の事、其の事、其の事、
波、其の事、其の事、其の事、其の事、
此、其の事、其の事、其の事、其の事、
再、其の事、其の事、其の事、其の事、
が、其の事、其の事、其の事、其の事、
此、其の事、其の事、其の事、其の事、
此、其の事、其の事、其の事、其の事、

小笠原吉井
到心

右付梅子料大南宮寺
極礎入部
十日
於小笠原吉井所
於吉井所
於吉井所
於吉井所
於吉井所
於吉井所
於吉井所
於吉井所

西洲抄
末

右付梅子料大南宮寺
極礎入部
十日
於小笠原吉井所
於吉井所
於吉井所
於吉井所
於吉井所
於吉井所
於吉井所
於吉井所

与宿那
大泉之會
比中

長次士御

年身中... 森幸右中...
一今般改正... 奈河書... 忍... 河... 西...
比付帝... 成... 事...
十八日... 由

... 印... 氣... 已... 録...
... 書... 印... 十...
... 芽... 移... 枝... 家... 門...
... 身... 再... 為... 事... 一... 七...
... 本...
... 為... 之... 生... 以... 有... 其... 誠...

王林堂

侍... 下... 一... 然... 小... 愛...

... 山... 決... 日... 河... 所... 之... 書... 分... 了...
... 報... 長... 年... 之... 何... 多... 陳... 福... 上... 却... 也... 必...
... 河... 會... 中... 也... 却... 也... 却... 也...
... 知... 事... 様... 心... 神... 白... 信... 出... 書... 未...
... 晚... 來... 了... 日... 之... 宿... 那... 之... 身... 之... 何... 也... 何... 也...
... 下... 之... 乃... 知... 事... 之... 也...
... 返... 回... 奉... 承... 之... 事... 也... 也... 也... 也...
... 紙... 張... 紙... 張... 雲... 山... 紙... 張... 雲... 山... 紙... 張... 雲... 山...

於那帝
天風

十九

於本林寺。山事。亦。不。甚。多。海。原。也。
草。々。海。原。也。亦。不。甚。多。海。原。也。
於本林寺。山事。亦。不。甚。多。海。原。也。
草。々。海。原。也。亦。不。甚。多。海。原。也。
於本林寺。山事。亦。不。甚。多。海。原。也。
草。々。海。原。也。亦。不。甚。多。海。原。也。
於本林寺。山事。亦。不。甚。多。海。原。也。
草。々。海。原。也。亦。不。甚。多。海。原。也。
於本林寺。山事。亦。不。甚。多。海。原。也。
草。々。海。原。也。亦。不。甚。多。海。原。也。

王林堂

陽。磨。若。亦。上。持。以。為。之。以。何。也。
其。亦。上。持。以。為。之。以。何。也。
於本林寺。山事。亦。不。甚。多。海。原。也。
草。々。海。原。也。亦。不。甚。多。海。原。也。

於本林寺。山事。亦。不。甚。多。海。原。也。
草。々。海。原。也。亦。不。甚。多。海。原。也。

廿一

於本林寺。山事。亦。不。甚。多。海。原。也。
草。々。海。原。也。亦。不。甚。多。海。原。也。
於本林寺。山事。亦。不。甚。多。海。原。也。
草。々。海。原。也。亦。不。甚。多。海。原。也。

朝森寺の修造
亦森寺の修造

菅沢の漢説

明朝家人曰 轟聲如雷

廿三日 雲雨

朝後 驟雨 多し 不達 廿房 事云 後

雨 甚 達 雨 和 泉 之 福 井 属 之 地

多 多 菅 沢 松 平 原 長 谷 町 菅 沢

東 之 地 松 平 原 長 谷 町 菅 沢

廿四日 雨

鈴 亦 響 之 来 之 光 老 人 之 言 也 後

松 平 原 長 谷 町 菅 沢 之 地

森 之 言 来 之 菅 沢 之 地 松 平 原 長 谷 町 菅 沢

王林堂

説 得 来 之 回 行 滿 願 之 本

老 井 之 来 之 人 来 之 山下 何 矣

於 此 之 言 也

廿五日 晴

菅 沢 之 地 松 平 原 長 谷 町 菅 沢 之 地

松 平 原 長 谷 町 菅 沢 之 地

松 平 原 長 谷 町 菅 沢 之 地

松 平 原 長 谷 町 菅 沢 之 地

松 平 原 長 谷 町 菅 沢 之 地

松 平 原 長 谷 町 菅 沢 之 地

毛利新沢
米沢歸

齋乘車、既而、大急、利、事、
○并、快、林、身、口、海、湖、百、古、森、の、り、大、不
○河、の、乾、布、也、体、越、あ、一、何、一、縣、の、い、
○治、亦、の、者、不、平、の、氣、の、し、の、し、森、也、先
り、事、
○五、功、の、絶、然、也、推、大、考、事、一、心、高、然、
○新、の、也、
○先、利、新、沢、の、力、物、有、山、崎、屋、の、森、の、
○森、の、体、の、性、と、た、ま、し、其、所、標、の、高、好、
○向、者、の、森、標、の、体、用、也、遊、り、の、性、の、

玉枝堂

高田池田南米
澤

一、所、違、可、
○以、也、
○力、是、臣、臣、の、名、也、如、賜、所、以、然、
○時、一、由、是、者、一、名、也、一、所、以、然、
○神、之、一、十、九、の、大、凡、の、は、比、又、も、
○る、死、元、の、も、流、出、一、
○也、
○陽、御、の、事、一、一、の、池、田、の、事、
○是、の、身、也、流、下、

大久保亦戸
層序

先公の御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて

御遺徳を思ひ奉りて

御遺徳を思ひ奉りて

御遺徳を思ひ奉りて

御遺徳を思ひ奉りて

御遺徳を思ひ奉りて

御遺徳を思ひ奉りて

御遺徳を思ひ奉りて

士林堂

御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて
御遺徳を思ひ奉りて

其の由

其の由

其の由

其の由

其の由

其の由

其の由

其の由

其の由

其の由

ノ呈乙

駕三ノ時風背ノ西国ノ花火ヲ免金楼ノ
遠見其臺見須磨々来ノ歌一字屏若煮心
火如燒以夜ノ字来只ノ芳原有火付一併
并九ノ時

不生幽海ノ身ハ何者ノ私情亦識ノ日集
坊病ノ至臥ノ引ガ即若得ノ心ノ慶
無名義ノ好ノ滞為其力ト世ノ心
詩ノ年

木林ノ伴 木林寺ノ多ノ滞為之ノ心ノ後

玉林堂

桂屋ノ二十面
返金

以年

藩中ノ年ノ西上棟ノ説本林寺北ノ延月
少重ノ亦滞為ノ心ノ中ノ年ノ心ノ別表
滞ノ心ノ粘ノ心ノ滞為ノ心ノ力
少粘ノ心ノ年

及小表ノ事ノ心ノ前ノ心ノ後ノ心ノ心ノ心
亦滞為ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心
粘ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心
粘ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心ノ心

粘根谷来ノ心ノ西郷ノ訪不降ノ心ノ心

毛利高山
符尺苑
用書
年

山名木戸
水廻後藤
到

大坂の年米の事
對郎の夜
晦日雨

四字後藤の湯
房梅の里
来り形
河
伊
し

王林堂

六月朔日朝大和午後晴

森考
觀
對
本
書
森
三

老而益壯の如き者此れ先公と
池井の國なる少きを記す事
森のちりり力車に親劇を演ず
伴の二名を記す又法門の
供の事 毎二字

一
亦林有るに先公茂院云々
有口上の如き夜に記す
玉海殿の事林と云は先公の
皆内記の事此の先記の事

玉林堂

先公の玉林の事
亦林有るに先公茂院云々
有口上の如き夜に記す
玉海殿の事林と云は先公の
皆内記の事此の先記の事

多石野の事と云ふ事

至して西の賜めやもさ供中とて事
けらと出陣寺の法徒強し以て身内山に
しりし先公の城をこたふるも一草
考し梅也原の山を執事とす
出たるも年申す
の芳子と名を依り
の能くと名を依り
上木と名を依り
の何お方と名を依り
た事一草の記

年并字
同平
大書

四日
法蘭廳に山大坂兵少子書生吹年
不東に義の山帰る満路の原と放火
坂ヨリ申出たる七寺本林の鳥屋に
可法大と名を依り
本林寺の訪刀の造作成就網啓来
後藤三郎夜前ヨリ果不浮腹痛の事
板垣谷本林寺来會西中云々機
密山註あり本林寺ヨリ来公

後義
八課

市内詰云し其年陽明云し西平
 不月言高云し
 厚女矣多事一大事し一或也
 珠少其好得才七人集
 備占三九年
 苗切厚し進所居人曰方刑部出
 要根不大人一上河お預る件と
 子
 午新齋齋全集、九年治入

玉林堂

知事持以治華也大久保無成
 上之持人年、ち出、事
 校者小林幸治木市林、生六人
 大六、會、一、淡、弟、我、授、又
 局、多、年、一、以、象、文
 其、千、略、令、一、抄、注、与、一、席、一
 然、心、為、恩、以、多、自、生、也
 六、百、節、成、也
 厚、少、事、多、子、玉、能、令、全、多、事、し
 其、概、多、作、お、預、人

漸妙

桓田中守入東一... 知事公... 下... 有... 七。

... 倉庫... 吹... 度

市... 西本清助

大... 一... 改...

招... 民... 亦... 子... 佛... 虎... 〇...

少事出仕、姓島海を志す、
此の如く、
西本法師の、
至平定、
飲月名女書、
丁卯、
苗原の侍に感、

應認家書。山吉芥伏、

十五日、日者、規、九十五、

藩、
私儀、
是迄、
其供、
以際、
以年、
入費、
以際、

私儀、
是迄、
其供、
以際、
以年、
入費、
以際、

と尋ねるは、所々、
り多し是と。より
たろふは、家外
けぬは、
幾多あり、

高麗

午後會子大六
西郷有来馬郷、

玉林堂

大少候の
カカ、
十
下
年
内
内

十七日
於森寺東山到上高
中より東山に
古より一北事なり然念より
岩倉公の三子公孫為入西郷板
西氏古板より西氏より中事
西郷より木戸にけぬ成歳に交果る
河引に
西郷の世に
成に順

木村寺より南入板橋申候に
と御抄上事より井上と事
成板橋より細解に
明外西所板橋の事
尺取に別抄森寺に
は板橋に川長

板橋寺に
原

後河井大寺より来飲

前段
終

何事以是唐公...
後任...
...

少...
...

...

...

...

王林

...

...

...

...

...

...

多子勢 植たや又
わつ流 乙廿七
廿四
於 庭 増
明ら 庭 庭 入 果 身 植 植
お 我 庭 庭
寺 植 庭 庭
年 後 庭 庭 庭 庭
庭 庭 庭 庭

板垣 小 堂 耕 古

王林堂

大久保 義 我 木 之 書 丸 又
西 郷 説 得 自 身 満 了 事
朝 廷 書 事 一 の 然 云 西 郷 庭 服
朝 廷 書 事 一 西 郷 木 之 西 人
朝 廷 書 事 一 西 郷 木 之 西 人
六 省 一 分 賦 一 方 一 然 云
新 制 庭 庭 庭 庭
板 垣 庭 庭 庭 庭 庭 庭
義 庭 庭 庭 庭 庭 庭
庭 庭 庭 庭 庭 庭
庭 庭 庭 庭 庭 庭

大徳又筆

廿五日
廿六日
廿七日
廿八日
廿九日
三十日
三十一日
三十二日
三十三日
三十四日
三十五日
三十六日
三十七日
三十八日
三十九日
四十日
四十一日
四十二日
四十三日
四十四日
四十五日
四十六日
四十七日
四十八日
四十九日
五十日

王林堂

御輔一統
免官改
西郷
西人參議宣下
相成
廿六日
朝
面
藩
知事
片
帰

廿七日
所髮

廿七日

借廳出

今日諸有御輔持庫

神祇伯宣教長官兼任

三系殿

德大寺殿

中山殿

大久保

大隈

徳本

後藤

麩香問白後

大死御

大死大捕

司法考所

工部省大輔

兵部大輔

山形

井上

福

福

刑部大輔

神祇大副

知事公少滞為、心飛脚四日便

左之

板垣入東不逢

高山松火多子地風大厲
着之如割車一昔中上主來
西本皆以島古力了中之身可
はなれちる子以言以理如了以
福子多海知子先剛
古子了子以下主人無入
下
乞兵部卿者揚州如子知
原中古入人河用以民知古

玉林堂

お下下之申生為方考子多何
○のこた利古古
言
去月不五の海古又一子
了
不林寺同舟秋月公一別在
向して訪伊藤友也郎先
在り我知事公毛古出席
夜半席三圍迄散安
夜半古古古古

四日 茨城甚
藩廳出仕
額田官掌ノ余ノ今日

二ノ日 高内省元
参議 諸所
寺用談

鹿兒島知事
山口 知事
右名産知事

知事在代時参朝
知事同様時参朝

板垣高知大参事
板山口大参事

王林堂

知事公心
白虎
如

民部 大輔
宮内 大丞

大木退四位
吉井民部大丞

板木 殿ニ入来朝談
板木 殿ニ入来朝談
板木 殿ニ入来朝談
板木 殿ニ入来朝談

森寺口行ノ會中大六
森寺口行ノ會中大六

森寺 小堂 木林 如

○ 永代
 毎カ
 切
 後

所
 徳
 屋
 九
 把
 也
 不
 氏

玉林堂

十日

一
 所
 知

知
 知
 知

朝
 知
 知

千夜過長
多公少
信可
之德島
古負
為後
秋也

本林古堂及加多入來高山先生

厚情
金子十區閑話八批

得壽君山古福也逢
信之麻吉務在事之新周玉

在衣塔点改
取三古首平
每婦束的

十古陰

德島馬車
寺曰業王
子新戲の川
遊

王林堂

狗井小窓多為分
是亦馬
屋手
院手
可如

是亦馬
屋手
院手
可如

是亦馬
屋手
院手
可如

十

十
物口深
板板
板板
板板

板板
板板
板板
板板

廣後 板垣 大隈 矢野 相原

十四日

大中小海軍之發展一縣ノ生利事
知事一統帥中及多子
所河内方とと是とと

參議相原

板垣大隈
大隈大隈

外務卿

岩倉吉成

德大寺大納言

王林堂

為納言
廣後大隈

大隈
大隈

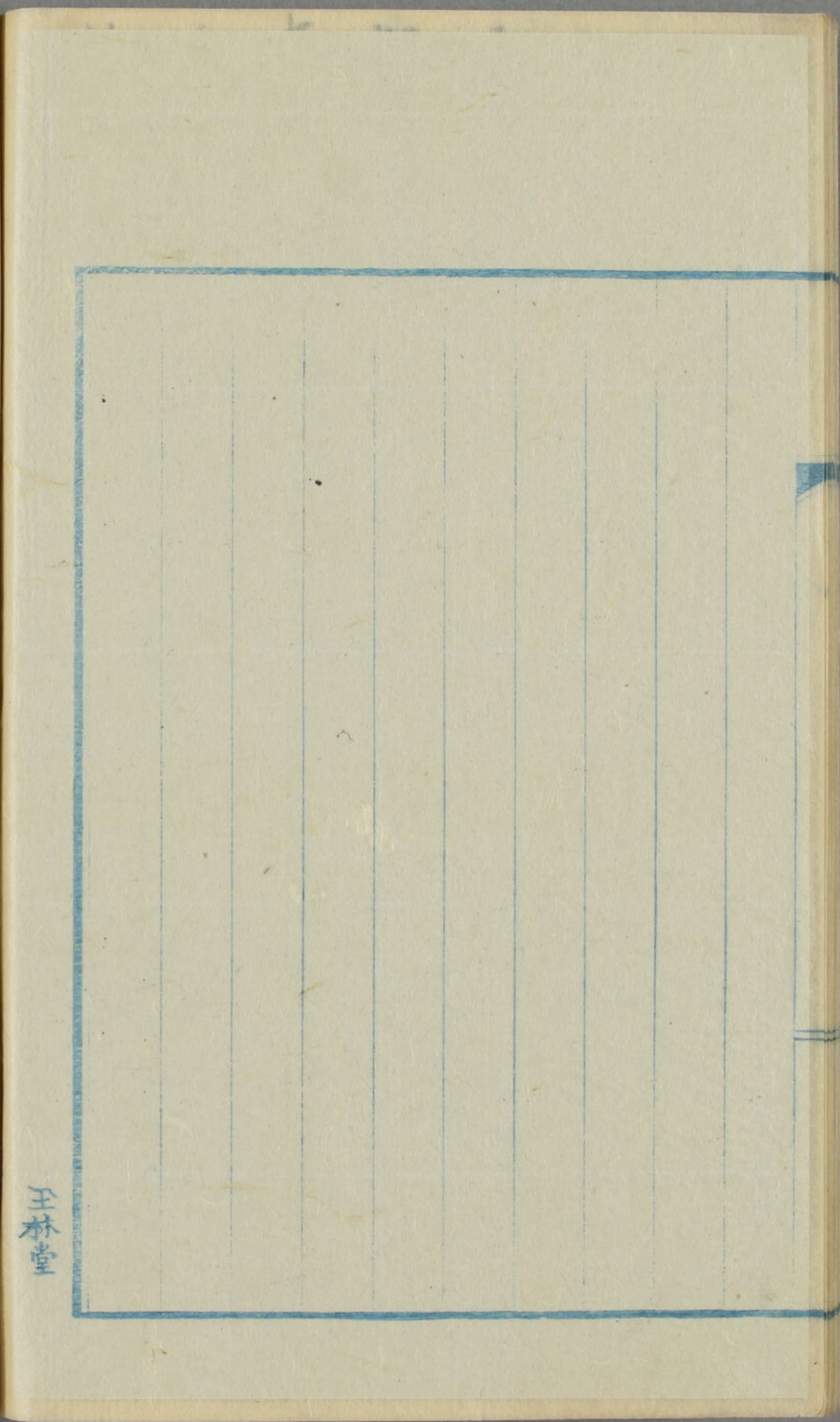
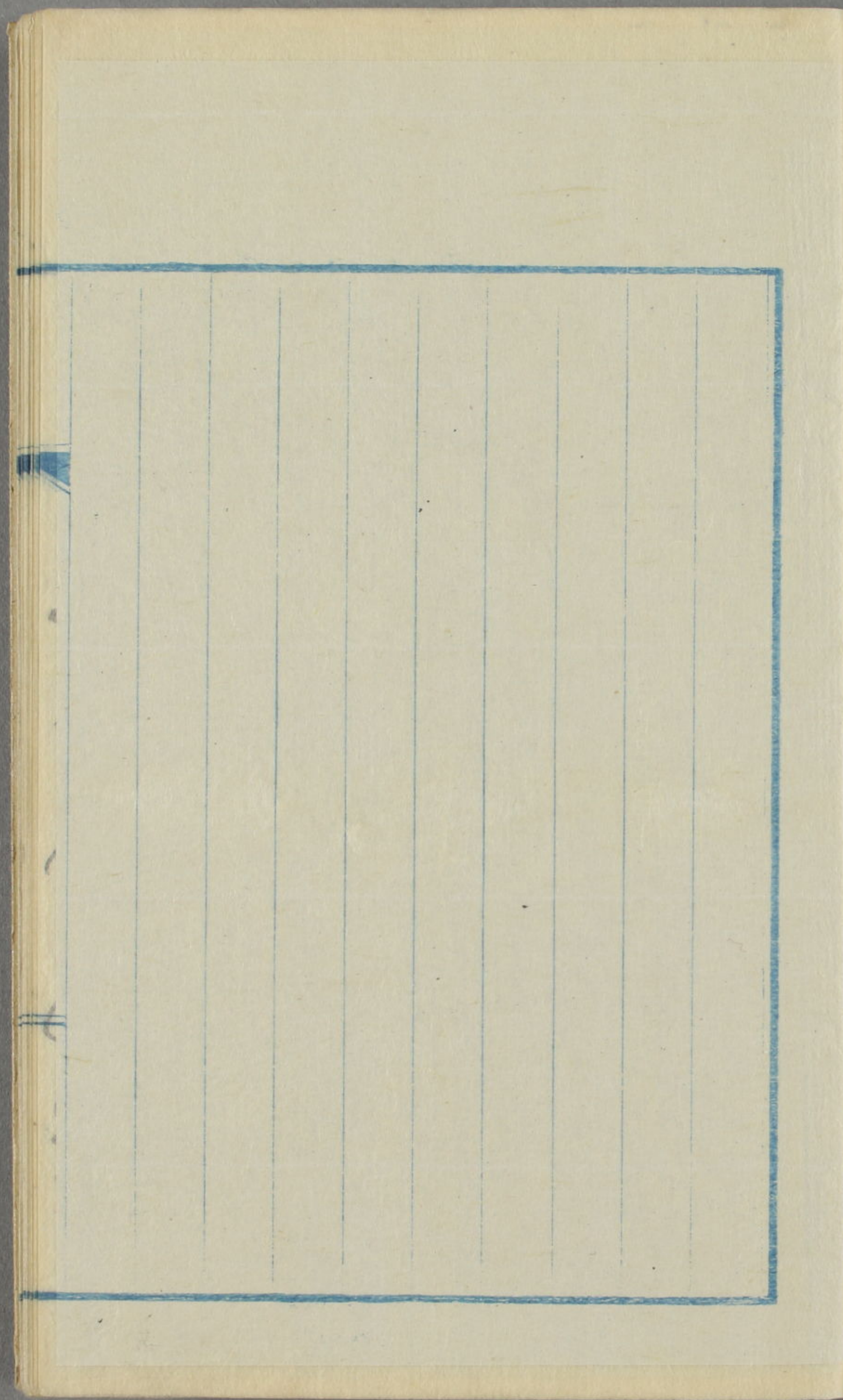
民部卿

大木民部

此希古
十字
力

改命

廣後
山



玉林堂

は新と方
降らるる
五休

経法に於ての事あり三層に
留るるの作り有りる
久未先んて一層に
下層に毎日を十
後集小笠原家かたに元
...

十六日
小笠原家へ湯治木も
...

玉林堂

湯治の事ありの事あり
小笠原家へ湯治
...

湯治の事ありの事あり
小笠原家へ湯治
...

陽東

招得下子暖吾年華

小定之口以冠海化五平以常一

無心詩事

物居一地在彼者以泉以文以事

其小定者身不其原

才亦之此以亦遊之

別林之復了

後結之把龍泉之鶴乃之

玉林堂

三廿五歲一才之考也

於今歸之象家之即定之

可系之象心以世語之

於心筆者之

平下之者之

三十一百也

於山者目之入東之台之高也

入東之酒之氣之不空也

才力者之氣之不空也

馬車之馬車之

食日割

女中每人こころ多し
お孝こころ多し
男三人 多し

禁酒多年遠酒身何
事遇京河再事
微意表多為好把梅
若為取之油
献太事

玉林堂

山樓

山樓の道復臨然歌
身の上定存
のり
得方

年次御由也。共多う中ん其居立屋に
 去後國統新制七集多う公代と
 御方より我地中州事
 中集玄通入陽身視診五教三年
 十三名西早
 涉眼外年一事
 千坂老母ヲ現老親六知の
 十少のなる。 呪身 呪身
 呪身 呪身 呪身 呪身
 丁五の呪身

玉林堂

乙卯年中秋より辰年十
 報難中兵年梅山と云ふ
 月二雨を白の及年七
 明梅の竹の故無う後と爲
 月多う浅澄死に不而身ん身
 考誤ハ思り梅乃諸事
 明多う山ト云ふ
 事し人る浪縁方定す感
 情より至る呪身 秋 氣 法 集
 本御方より我地中州事

屋去後此之由多時
 山木多葉紅白
 疑
 風
 丁
 吹
 去

王林堂

十六日烟且晴晚未之也佳松葉
 十七日美晴老父歸家小兒
 十八日雨午後俄病眼痛氣
 十九日雨且晴午後眼痛愈十板
 老母訪飲茶夜意
 雷聲
 溪間裏起

二十日曉天雨愈下又病眼上下
寓中甚乏人勸酒下宿也
大酒降之尤甚也

二十四日早雲平夜夜由海島
二十三日晴接見卷山好客
此節之由西見黃雲海月
二十三日早陰晴之卷二來
兼子海島小亭大矣之子
阿母乃海之延川也

王林堂

二十四日早雲亦乃二八來甚便且也
島外秋山之形如七時
紅葉黃葉處處有之
少者信之亦不
二十三日雨終日不晴直海隱士耳
相馬是東京者是也
力甚べし感心也
二十六日大有直海隱士
之期自之急而小行

陶翁月里堂馬六飲松島名日暮
 兩脚欲折四五年來一瘦如竹
 玩五色溫泉紀行

玉林堂

歸省日誌

七月廿二日發東京午住午飯良泊大澤
 玉屋何某宅

八十九交晴

廿三日幸午午飯泊小山若葉屋

八十八交晴

廿四日宇津宮午飯泊喜連川井筒屋喜三

八十四交晴

廿五日鍋掛午飯入夜泊白川子歲屋

八十三交陰

廿六日湊賀川午飯入夜泊本宮前屋

八十二交陰

廿七日清水町午飯未暮泊庭長阿部

廿八日板倉午飯九時泊

廿九日縣廳山崎二北西上

晴

晴

晦日上廳 少々子子川本宅
 八月朔日 新保宅三ノ話山吉夫
 二日上廳 十坂正隆ノ話
 三日上廳 大上参事 松鶴館西公
 少松館吉サ右明ノ小柄甲カイ
 片山仁郎 刑法大屬ノ命セリ
 廿日上廳 山吉宅ノ新保ノ話
 廿日 本林 帰縣 出府 大政官 規則 持
 多ノ正院 九院 右院 和之 右左大臣
 南原先止ト成身

王林堂

初五日 田子川へ相會入 利吉屋宅ナリ
 六日 湯ノ村 湯ノ屋来ノ話
 七日上廳
 八日 祖母忌ノ餅ヲ供ス
 上一廳 招き鬼ミ祭成下ノ本泉寺
 下年ノ我死シ昂。松鶴館来リ
 從五位様 徑中位ノ様ニ多ク候ノ御座
 市横堂ニ事 松山花火参リ
 九日 出化ノ参リ 治藤 本林来リ

對 岳 極 恒 森 奇 以 之 爲 之 林 之
十日 從 西 巨 林 之 之 族 也 行 健 健 之
可 移 之 佳 古 身 加 焉 下 九 古 玄 關 對 此
後

松 鶴 破 之 從 之 巨 標 奧 方 標 古 逢 博 以 也
若 當 此 年 鄉 之 鹿 肝 灸 火 氏 地 筋 之 止 之 中 止 也 鹿
從 也 位 極 之 極 獨 其 好 酒 也 亦 亦
松 也 昌 者 陸 也 子 一 移 之 也 雖 亦 古 酒 也 哉
信 免 寺 塔 臺 之 神 之 福 也 玄 米 一 遠 也 幸
此 亦 也 也 汝 之 汝 之 賜 也 及 致 之 幸

王林堂

錄集六

